

No.	⑮	分類	2-(2)-イ	資料名	私の懷に	学年	2・3年	領域	総合的な学習の時間
-----	---	----	---------	-----	------	----	------	----	-----------

1 ねらい

- 地球上の子どもたちを取り巻く環境について知り、子どもたちの生命や安全、権利を守っていくことの重要性を考えるとともに、命の大切さや生きることの尊さを学ぶ。

2 趣旨

- 本資料は、県内の中学生がN G O活動でアジアの国々の支援を行った体験の中で感じたことを描いている。
- ベトナムとドクさんとの交流の中で感じたことを取り上げ、紛争や貧困の問題を解決し世界中の人々が共生していくために何をすべきかを考えさせようとしている。

3 配慮事項

- 家族など身近な人の死を経験している生徒の状況を事前に把握しておく。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 住んでみたい国について、その理由とともに話し合う。 2 資料を読み、ミャンマーとベトナムの両国で感じたことについて考える。 ワクチンの投与で「僕」はなぜ泣きそうになったのでしょうか。 ・日本の多くの人々の気持ちを無駄にすることなくワクチンが投与できた。 ・世界にはこれほど大変な状況がある国があるということを知らなかった。 ・自分が人の役に立てたと実感した。 バスの中で出た涙はどのような涙だったのでしょうか。 ・子どもたちが犠牲になったことが悲しい。 ・人間同士が争っていることが悲しい。 ・自分はとても無力だ。 3 旅を終えての思いを考える。 この旅を通して、「僕」はどんなことを感じたのでしょうか。 ・世界にはまだまだいろいろな課題がある。 ・戦争は決して許さない。 ・日本の子どもたちは本当に幸せなのか。 ・自分にできることを考えて実行したい。 ○ドクさんが自分の子どもの名前に込めた思いについて考える。 ・日本の人々に感謝している。 ・自分の子どもがベトナムと日本の友好のために活躍して欲しい。 4 今の自分たちにできることを考える。 ・キャップ回収など学校で取り組めることを積極的に行う。 ・世界の国の子どもたちの様子について調べ、その様子を伝えていく。	・P 34の参考資料等を活用し、治安や経済的な面で厳しい状況にある国があることを押さえる。 ・学校や地域で行ったことのある福祉活動などの経験から、主人公の気持ちを想像させる。 ・自分の誕生日であったこともあり、「生」と「死」について深く考えたことに気づかせる。 ・厳しい状況を感じながらも、僕が前向きに考えていることを感じ取らせる。 ・自分の生き方や生活の仕方を見直そうとした僕の思いに共感させたい。 ・ドクさんが日本の医療によって助けられたことを知らせながら、国家間の友好や様々な人権課題の解決のための糸口を考えさせる。 ・生徒会活動等を通して、今の自分たちにできることを具体的に考え、実行しようとする意欲を高める。 ・自分が幼少時にワクチン接種を受けたことや、戦後日本が多くの国々の支援を受けたり、また支援してきたことなどを知らせ、今の自分の命や生活が多くの人に支えられていることに気づかせたい。

兄グエン・ベトさん、弟グエン・ドクさんの双子の兄弟。1981（昭和56）年、下半身がつながった結合双生児として生まれた。二人が結合双生児となったのは、ベトナム戦争時に散布された枯葉剤の被害の可能性があるとして報道された。

日本でも支援活動が起こり、1985（昭和60）年に「ベトちゃんとドクちゃんの発達を願う会」が福井県で結成された。

1986（昭和61）年にベトさんが急性脳症を発症し、後遺症が残った。1988（昭和63）年にベトさんが意識不明の重体になったため、二人とも死亡してしまう事態を避けるために、ホーチミン市立ツーズー病院で分離手術が行われた。この手術は日本赤十字社が支援し、日本からも医師が派遣された。ベトナム人医師70人、日本人医師4人という医師団が編成され、17時間に及ぶ手術が行われ、手術は成功した。ベトさんに左足が、ドクさんに右足がそれぞれ残された。

ドクさんには日本から義足が提供された。1992年、ドクさんは来日し、兵庫県立総合リハビリテーションセンターに約80日間入院し、義足の新調とリハビリを行った。このとき、全国から励ましの手紙が寄せられ、また、同センターの病院長らの呼びかけで発足した「ドクちゃん寄金」には、9,000万円あまりの募金が集まった。

2006（平成18）年にドクさんは結婚し、その後、ベトさんを引き取り夫婦で介護していた。2007（平成19）年ベトさんは腎不全と肺炎の併発により26歳で死去した。

2009（平成21）年、ドクさん夫婦に双子が生まれた。

資料提供：兵庫県立総合リハビリテーションセンター



リハビリを行うドクさん

子ども NGO 懐

但馬地方の子どもたちを中心とした NGO グループ。メンバーは現在約 350 名。募金活動や文化事業の収益金を基に、子どもたちがアジアの国々に赴き、ポリオワクチンや文房具などを送る活動を行っている。現在は東日本大震災へのボランティア活動にも力を入れている。

世界の子もたちは、今

パレスチナ自治区 紛争下の子どもたち

ぼくたちの国では、突然銃撃戦が始まります。ぼくの家は空からの攻撃で壊されてしまい、一瞬でなくなってしまったんだ。これから、ぼくの生活はどうなるんだろう。

コロンビア 避難民の子どもたち

私たちは 40 年以上続く紛争で、自分たちの家が焼かれてしまったの。家族みんなで避難所にすんでいます。時々、知らない人が家に入ってきて、乱暴する夢をみます。私の夢は、家族みんなと平和に暮らしたいだけなのに。

コンゴ民主共和国 子ども兵士の解放

ぼくの国では長く、内戦がつづいていた。ぼくは小さい時に武装組織に誘拐されて、銃の使い方を習ったあと、仲間と一緒に戦っていたんだ。でもユニセフが、ぼくたちのような子ども兵士を武装組織から救い出して、暴力を目の当たりにした心の傷をいやし、勉強する場所を与えてくれたんだ。

パキスタン 児童労働

私はレンガ工場で働いています。14 歳以下の子どもの働くことは法律で禁じられているけれど、お父さんが病気で働けないから、私が学校へ行かないで家族の生活のために働かなければいけないの。

南アフリカ共和国 子どもの保護

ぼくのお母さんは 2 歳の時に殺され、ぼくのお父さんは刑務所に出たり入ったりしているんだ。おじいちゃんはぼくをひきとってくれたんだけど、家がないから路上で生活しながら、ずっと物乞いをさせられていた。今は身寄りのない子どものためのセンターに通っているいろいろ相談にのってもらっているんだ。将来の夢は悪い人をつかまえる警察官になることだよ。

エチオピア 女の子の早い結婚

私は 13 歳。この国の伝統や習慣では結婚を決めるのは親です。私は学校に通い続けたいといいたけれど、親は聞き入れてくれず、今までに 2 回も強制的に結婚させられそうになったけれど逃げ出したの。そして、今は学校へ通って勉強をしているのよ。女の子も自分の意思で、人生や生活が送れるようにならないといけないと思う。それには教育が大切なの。

グアテマラ HIV / エイズ

ぼくは生まれた時から HIV 陽性なんだ。だから、エイズの発症を抑えるお薬を飲んでます。ずっとこの薬は飲み続けなければならないんだ。ぼくのお父さんもお母さんも HIV 陽性だけど、最近お父さんの具合が悪いから心配なんだ。